

# 願成寺報

平成二十五年三月十二日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

## ■ 春季彼岸・永代経のご案内

左記により勤修いたします  
万障お繰り合わせて お誘い合わせてお参り下さい

## ○ 草取り・餅つき会

草取りと餅つき会をします。お昼はお雑煮にします。  
お力を頂き清浄な彼岸を迎えたく、お手伝い下さい。  
賑やかが第一です。声の応援だけでもお願いします。



三月 十七日(日) 午前十時 草取り・餅つき会  
昼食まで

十九日(火) 午後一時 法要のみ

二十日(水) 午前十時 法要・法話 住職  
午前十二時 お斎(昼食)  
午後一時 法要・法話

浄土真宗本願寺派 勸正寺(大井町)  
山口恵教師

## 「法話で伝わること」

中学二年生の息子は、どうやら学校の授業をあまりよく聞いていないようです。宿題はトンチンカンなものを提出しているようです。成績にも顕われています。聞くと「面白くない」と言います。まあ、私にも覚えがありますが、勿体ないと思います。

何が伝われば良い授業になるのでしょうか？

予備校や塾には、問題を解く能力や知識を求めます。

けれど、様々な生徒のいる公立学校ではどうでしょう。

先生には、その教科の面白さを語って欲しい。それに懸ける情熱を伝えて欲しいです。生徒はその情熱に感化されてスイッチを入れると思います。生徒は教えられる内容ではなく、教え方に注目すべきです。たとえ授業内容を知っていても居眠りせず、先生の語り方や向き合い方に集中すれば、その先生からしか受け取れない多くの宝を受け取るでしょう。

だから授業の良し悪しは、挨拶の時に決まります。

興味津々の教室を羨ましく想像します。

法話でも、話者と聴衆が一緒にお念仏する最初の場面が重要です。

煩惱具足と信知シテ 本願力に乗ズレバ

スナワチ穢身ステハテテ 法性常樂証セシム

《善導禪師和讃・親鸞聖人》

山口恵教師のご法話に大変期待しています。

午後のみで残念ですが、丸いお人柄が伝わると思います。

豊橋仏教会で総務という大変難しい仕事を笑顔でこなされました。私が今まで遇った人の中で最も円満なお方です。

お人柄は、生まれつきか？ お念仏の賜物か？

皆様にも、是非、確かめて戴きたいと思えます。



## ● 正信偈ノート ⑦ ・ 釋迦章 I

書き直しを恐れず、今、思い浮かぶところを書き留める

如来所以興出世 唯説弥陀本願海

黄色の勤行本の

五濁悪時群生海 応信如来如実言

十九ページから

如来が世に興出されたのは、ただ弥陀の本願海を説くためなり。  
五濁悪時の群生海、如来如実の言を信ずべし。

〔浄土真宗本願寺派・注釈版聖典より〕

### ・ 如来の出世の本懐

十方の諸仏方と同様に、お釋迦様（釈尊）も、この世界で『弥陀の本願』をお説きになりました。それこそが釈尊の本懐・お生まれになった理由だと、親鸞聖人は領かれました。

釈尊は、相手に合わせて覚りの世界とそこに至る行をお説きになりました。八万四千と言われる法門が残され、一切経に集大成されています。

しかし、善に迷い・戒を保てず・教えられても行ずることの出来ない煩惱の凡夫でも、等しく済われていく道こそ説かれるべきであり、それが『弥陀の本願』だということです。その教えの本質は「あなたはあなたに成ればよい」だと理解しています。

### ・ 誕生譚（唯我独尊）

四月八日は、釈尊の誕生日で「花まつり」の行事が営まれます。誕生仏に甘茶をかけてお祝いしますが、ここに仏教の本質を語る物語が残されています。

釈尊は産まれたての中、七歩歩んで天下を指さし「天上天下唯我独尊 三界皆苦 吾当安之」と宣言されました。『縁起の理』を意識しながら、その意味を尋ねます。

地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天の迷いの六道を超えて、覚りの世界から振り返ると、理想を先に建てたことが迷いの元であり、全ての縁を苦と観せるのであった。覚りを得た今、どのような縁も特別な縁として丁寧に頂き、常に産まれ直し、他の誰でもない、たった独りの私を、尊い私として育てよう。

### ・ 五濁の時代

釈尊入滅後、千五百年以降を末法の時代と呼びます。覚りを得る人も行者もいなくなり、ただ教のみが残っている時代ということです。濁りが多く、覚りから遠い時代が既に千年続いています。

#### 劫濁

社会の濁り 例え、利用できるもののみ良とする社会

#### 見濁

思想の濁り 例え、納得できることのみ善とする思想

#### 煩惱濁

欲の肥大化 例え、生産より消費に重きを置く経済

#### 衆生濁

品性の低下 例え、私の現実に領くことのない生活

#### 命濁

命の軽視 例え、数値化・規格化・道具化される命

科学・医療が進歩し、物質的に豊かになった時代は、苦から逃れうると思わせる時代です。沢山の知識や情報があり、それぞれの我儘な理想を補強しています。だからこそ逆に苦悩が深まり、覚りから遠くなったと考えます。

若者が自分探しの旅をしますが、楽しい旅行では見つかりません。苦の縁を得て初めて自身を問い直し、新しく生まれ直します。

### ・ 私達の出世の本懐

『弥陀の本願海』『五濁の群生海』と二つ並べて戴かれてありますが、二つは別々にあるのではなく、一つの広くて深い海なのだと思います。私達は群生海を本願海に翻す必要があります。そのために生まれてきたのではないか：「唯聞弥陀本願海」が真宗門徒の出世の本懐であり、「何を持ったか・成したかではなく、どう目覚めたか」を課題とすべきだと教わります。

## 「長い箸の食卓」

その世界の食事は大きな丸いテーブルを囲んで行われます。真ん中に百味の御食、美味しい食べ物が山盛りになっています。手元には長い箸が置かれ、それで食事を摂る決まりです。

住人達がやってきました。

それぞれに箸で御馳走を摘まみ、自分の口へ運びます。

けれど箸が長すぎて食べることが出来ません。

自分のことばかり考えている住人達は、イライラして争い、いつまでも食べられず、皆やせ細って餓鬼の姿になっています。

別の世界でも同じ食卓で食事をします。

皆、穏やかな顔で身体も整っており、幸福そうです。

その住人達は、互いを思いやり、相手の口に御馳走を運ぶのでした。

地獄・天国の風景として語られる寓話です。

出典をインターネットで調べたのですが、ハッキリしません。お寺さんも時々話しますが、仏典ではないようです。

さて、人間界はどのように表現できるでしょうか？

御馳走が口元まで来ているのに、

文句を言わずにおれないのが我々の世界ではないでしょうか？

「それは嫌い、なんでそんな物よこすのか」

「あの人が良い、あなたからは貰いたくない」

「・・・」

不服の種はいくらでも湧いてきます。

ときどき食べるので身体は元氣です。

けれど、少しも幸せそうではありません。

私達は、物質の豊かさを愚痴の豊かさに換えることができます。とても厄介な才能を携えて生まれて来たようです。



## 「あきらめるいとをあきらめた」

Pray

作詞：MJC/LOVE 作曲：LOVE

歌：MJCアンサンブル

夜明け前の空に消えいく星たち shining star

今日までずっと歩いて来たね 明日を数えながら

安らぎの後には 次の試練がまた生まれて

神様 人は あとどれくらい 強くならなくちゃいけないの

あの頃と同じ色してる 雲の隙間の青空

夢は心の岸辺に立ち止まってた

遠く遠く祈りを捧ぐ 僕に何が出来たのだろうか？

いつかきつと笑える日まで 僕はここに立ち続けたい

人を信じるから裏切られたりする それでも

明日もきつと愛する人を 息を切らして守りたいから

漕ぎだした船は頼りなくて 風に潰されそうだよ

だけどいつかは辿り着くのだろう

遠く遠く祈りを捧ぐ 僕は何をすべきなんだろう？

やがて朝日昇る時まで 僕は瞳そらしたくない

人は弱くて 強くもあるね 犠牲とエゴの中

今は誰かの為とかじゃなく 自分の為に生きたい

遠く遠く祈りを捧ぐ 僕は今もちっぽけだけど

歩いていくよ道があるなら もしもそこに明日があるなら

焼き付けたい 祈りの歌を 一人一つ震える胸に

そしていつか流した涙 次の道に変えていきたい

果てしない 空に歌うよ

いつまでも ここで pray

十分に消化できていないけれど

歌声に感動したので 皆様にも聴いて戴きたく

歌詞を転載致しました 元氣が出てくる気がします

南相馬 ジュニア コーラス・アンサンブル (MJCアンガル)

2009年6月結成。南相馬の古い酒蔵を復元した銘醸館を拠点に活動中。

東日本大震災、福島第一原発の影響でメンバーがバラバラになる中、自主練習を続け、

『2011 どももコーラスフェスティバル』に出場。被災地からの感謝と元気を届ける活動を行っている。

<http://micensemble.web.fc2.com/aboutus.html> より

行事予定 平成二十五年

一月	一日 (火)	月例法話会・茶話会 (修正会)
二月	一日 (金)	月例法話会・茶話会
三月	一日 (金)	月例法話会・茶話会
三月	二十日 (水・祝)	春季彼岸・永代経法会 恒例の彼岸の法会です
四月	一日 (月)	月例法話会・茶話会
五月	一日 (水)	月例法話会・茶話会
六月	一日 (土)	月例法話会・茶話会
七月	一日 (月)	月例法話会・茶話会
八月	一日 (木)	月例法話会・茶話会
九月	一日 (日)	月例法話会・茶話会
	二十三日 (月・祝)	秋季彼岸・永代経法会 恒例の彼岸の法会です
十月	一日 (火)	月例法話会・茶話会
十一月	一日 (金)	月例法話会・茶話会
	三日 (日・祝)	高田本山団体参拝 本山の納骨堂法会に参拝します 市内・近郊の高田派寺院と共に バスを借りての日帰り旅行です
十二月	一日 (日)	月例法話会・茶話会
	七日 (土)	報恩講
	八日 (日)	真宗寺院で一番大切な法会です

○ 月例法話会では、『歎異抄』を題材に勉強しています  
どなたでもご参加できます お誘い合わせてお参り下さい

後記

○ 仏の智慧と人間の知恵の違いについて考えてみます。

知恵の限界・落とし穴に気付かしめるのが  
仏の智慧だという事です。

智慧に照らされなければこの文章は失敗に終わるのですが、  
どうなりますか：

○ 金子大榮先生に従って、知恵を知識と道徳に分けて考えます。

○ 有限なる知識は人を迷わせる。人は知識が足りなくて迷っていると  
思っているが、知識が豊富になる程、迷いは広がるのではないか？  
目的地に向かつて沢山の道が用意されている時、人は迷うのである。  
しかしどの道も絶対に確かという事はない。目的地すら曖昧で、  
あるかどうかも分からない。迷いの不安から一歩踏み出すためには、  
知識を捨てる勇氣が必要だ。

○ 我執から離れられない道徳は人を苦惱させる。法律は道徳の集大成だ  
と思うが、妥協の産物として書かれている。全ての人が納得する  
判決は少ない。なので裁判所には権威と権力が要だ。苦悩から解放  
されるためには、自らを善とすること、納得できないと叫ぶことを、  
止めなければならないと思う。

○ 比べることでは自己を発見することが出来ない人間の知恵。

それは世界から自分を切り離すこと。  
それがあることにより深まった不安と苦悩が私を孤独にする。

○ 孤独は「どうして」の問いから始まった。

誰も納得させてくれない：  
解かってくれない：

○ 念佛は「納得でない！」と握りしめた拳を、ユックリと解いていく  
ための呪文だと思う。自ら切り離してしまった世界に、安心して  
帰っていくための仏様からの呼び声。

苦しい時の「どうして」を「南无阿弥陀仏」に換えて歩みたい。